

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ブリ

学名 *Seriola quinqueradiata*

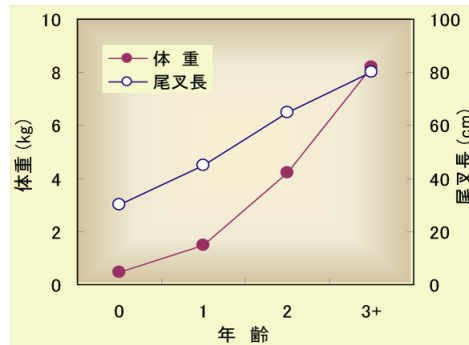
系群名 太平洋系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 7歳程度
成熟開始年齢: 2歳(50%)、3歳(100%)
産卵期・産卵場: 冬～春季(2～5月)、主に薩南・日向灘～四国沖
索餌期・索餌場: 夏～秋季、太平洋地先全般
食性: 稚魚は動物プランクトン、13cm以上では完全な魚食性となり、イワシ類やアジ、サバ類、底魚類など
捕食者: 流れ藻に付随する時期には共食いすることがある

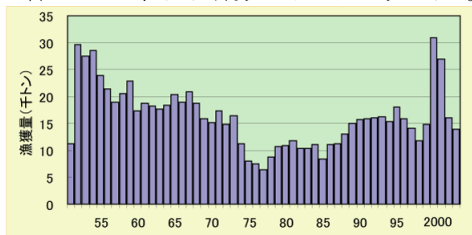


漁業の特徴

ブリは大型定置網の主要な対象種で、太平洋側では2003年には漁獲量の49%を定置網が、31%をまき網が、13%を釣り網が占めた。4～6月には鹿児島県から静岡県にかけてモジャコ採捕が行われている。引き続き小型魚は沿岸の定置網に入網する。若齢魚は太平洋沿岸に広く分布し、一部は太平洋北区まで回遊する。1950年代前半以前はブリ銘柄の大型魚の漁獲が多かったが、近年では若齢魚中心の漁獲となっている。

漁獲の動向

漁獲量は1951年に約30千トン記録した後に減少し続け、1977年には6.5千トンの最低値となった。その後1987年までは10千トン前後、1988～1999年では15千トン前後とやや増加した。2000年に31千トンに急増した後に減少し続け、2003年には14千トンとなった。外国漁船による漁獲はない。ぶり類の漁獲量にはブリの他にヒラマサ、カンパチを含んでいるが、その大部分はブリであると考えられる。



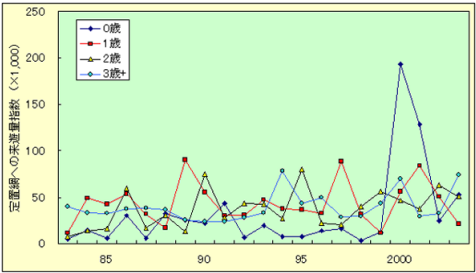
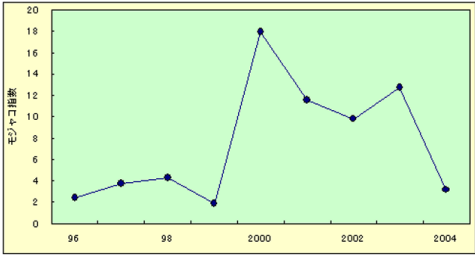
資源評価法

15年度まではVPAによる資源計算を行ってきた。今年度、新たな情報の入力により推定精度の向上を図ったところ、年齢別漁獲尾数の値が昨年とは大きく異なった。推定精度の向上は今後も続ける必要があるが、そのたびに資源計算の結果が異なることに問題がある。そこで、十分にデータが蓄積されるまでは、漁獲量とモジャコ指数(モジャコ漁況を指数化したもの)および定置網への来遊量指数を用いて資源評価を行う。

資源状態

資源の高水準期であった1950年代以前に比べると、漁獲物の年齢構成は若齢魚に大きく偏っている。モジャコ指数の推移によると、2000～2003年には比較的高い値が続いたが、2004年は1996～1999年並の低い値となった。若齢魚主体に漁獲している千葉県以北における漁獲量は減少傾向にある。年齢別の来遊量指数の推移によると、0歳では2000年と2001年に高かったものの2002年と2003年に低く、1歳では増減を繰り返すものの一定の傾向は認められず、2歳ではやや増加傾向にあり、3歳以上では1994年以降はそれ以前に比べて高い水準にあった。2004年も、定置網による3歳以上の好漁が各地で伝えられている。





管理方策

1950年代後半～1980年代前半におけるぶり銘柄の長期減少傾向の原因として、若齢魚への漁獲圧強化の可能性も否定できない。資源の水準と動向は中位・減少と判断されたことから、一定の漁獲量を超えないよう管理を行う必要があると考えられる。このために近年の漁獲量の平均を用いるが、平均をとる期間は3歳以上の資源状態が好転したと思われる1994年以降で卓越年級群の発生した2000年を除く期間とした。ABClimitは平均漁獲量×0.9、ABCtargetはABClimit×0.8とした。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	15千トン	0.9Cave9-yr	－	－
ABCtarget	12千トン	0.8ABClimit	－	－

資源評価のまとめ

- 現在の資源状態は資源の最低水準であった1980年代より良好である
- 近年の漁獲量は減少しており、2004年の加入量も少ないと予想される
- 年齢組成は資源の高水準期であった1950年代以前に比べて若齢魚に大きく偏っている

管理方策のまとめ

- 一定の漁獲量を超えないよう管理を行う必要がある

資源評価は毎年更新されます。